

会報「榊葉」第四号  
 昭和51年10月15日印行  
 発行者 石上紀男  
 編集者 吉田義隆  
 発行所 津市広明町  
           三重県神社庁内  
           三重県神道青年会

御 神 宝  
 陶製 狗犬  
 四日市々大宮町鎮座  
 市指定文化財

志 氏 神 社

当社は御祭神に伊吹戸主神をお祀りする延喜式内の古社で、御鎮座は垂仁天皇の御代と伝える。壬申の乱の際には、大海人皇子が美濃に赴く途中、迹太川で天照大神を望拝するために当地にて禊をなされたという由緒あるお宮である。また古代における当地は高野御前、或は四泥の崎とよばれ、万葉集には聖武天皇が北勢地方を行幸の際、丹比家真人が当社にて歌を詠んでいる。

後れにし人を思はく四泥崎。

木綿とり垂でて幸くとぞ思ふ

狗犬は阿形四十四センチ、呷形四十七センチの陶製のもので、江戸時代のもものとされている。昭和四十六年刑行の「四日市の文化財」には、その形状が詳しく述べられている。

頭部に玉をいたたく特殊な形式で、背部は波状を示している。頭髪は長く、後にたれ、あごの毛も深く、先の方が曲っている。まゆの毛は黒色で濃い。眼光は非常にすどく、口は堅く結んできばをあらわし、満身の力を両足に託して、すわっている姿は、一見、かわいい像容であるが、人を威圧するものをもっている。

この他当社には、前方後円墳、及びその出土品も保存しており、共に四日市々の文化財に指定されている。

(写真提供 三重県立博物館)

天皇御即位五十周年の佳年にあたり、きたる十一月十日、東京九段の日本武道館において政府主催の記念祝典を挙行する、と先月の閣議で正式決定された。この日は昭和三年の、京都御所の紫宸殿でおこなわれた即位式の当日にあたる。今秋は国内どよもすばかりの祝意が披瀝されることであろう、洵に慶祝の念に堪えない。それにしても、一世一元の元号問題はいずれに帰趨しゆくのであろうか。天皇制の本質にかかわる重大事として、遠からず態度決定をせまられることは何人の目にも明らかすぎるものであるが。

※

周知のとおり元号問題は、過ぐる四十三年の明治維新百年を機にほかならぬ神代人が法制化運動の口火をきり、論議もたかまつた四十七年、ようやく政府自民党が内閣部会の中に元号小委員会を設け、各界有識者の意見を徴して検討を加えはじめに至つたものである。

そもそも元号制の基礎は明治元年九月八日の行政官布告・旧皇室典範第十二条、さらに登権令第二・三条の三法令におかれ、枢密院に諮詢して勅定により公布される形式をとつていた。しかるに現憲法下の新皇室典範制定に際し、適切なる規定措置がほどこされなかつたため、その法

的根拠はきわめて曖昧なものとなつてしまつた。元号廃止論者の西暦採用説や遠慮説は論外であるが、擁護論者すら行政官布告有効説や慣習法説、はては単なる慣行説にと区々たる意見がみられる現状も、ここに起因している。

# 決断なき慣行

中西正幸

政府の審議経過では擁護の立場が守られてきているとは云え、慣習法説から慣行説へと大きく後退したことは看過できない。すなわち、元号そのものは国民的習律として定着した不文の慣習法であるとの当初の見

解から、単なる社会事実上の慣行にすぎず、改元を必要とする事態に臨んでなおも、その空白期間の招致は予想できる、と言葉を翻してしまつた。そしてこの後退に見合うかのようには、議会対策と党利党略から元号の立法措置を講じて法的拘束力をもたせようとはせず、内閣告示による訓令的効果をわずかに期待するに止める、というのが政府の方針である。

よらずしては、この問題の根本的な解決はたされがたく、早晚、法廷や戸籍の上で紛糾騒乱することは必ずである。

※

もとより、既存一切の秩序を維持せんとする保守的態度は、およそ現実存在するはずがない。貪婪に生成と流転をおこなす歴史の生命そのものが、静止することをみずからの基調への挑戦とすりぞけてやまないからである。さすれば保守の本姿とは、かかる歴史的现实にあつて、維

顧みれば、まさに政府は判断を留保して彌縫策に終始するものごとくである。それはともかく、世論にかいまみる社会心理上の陥穽もさることながら、慣行という言葉の甘美さによりかかることは危険である。

習俗や慣行の伝承性には、実は自然的な強化機能に盲従して、しだいに固定化することを避けたいものがある。それに比して、人間を根本的に信頼してはじめてなりたつ保守的態度とは、この盲従し固定化しかねない運命から、みずからを解きはなす営為として峻別されなければならない。

伝統が個体を媒介として、駁々手たる命題化の可能な理念に昇華されるためには、伝統をわがものとし、同時にその形成に参与する境位と行為の連関を欠かすことができない。その意味において伝統とは、われわれに決断をせまる脱却しがたい境位であり、われわれの根源的な生のいとなみにかわりくるものなのである。

伝統を枯死破滅においこみかねない慣行の魔性を見限りつつ、しかもなおそれを手懸りに元号の法的根拠を模索しつつづけている。天皇御即位五十年をことほぐ初秋の、かぎりなく悲しい元号問題の現実である。

(神宮宮掌)

過ぎ去つた今夏の思い出の中で、私の脳裏から離れ去る事が出来得ないものがある。

それは、土用の夕刻であつた。なにげなく町内掲示板に目をやると、「赤と灰色」の一枚のポスターが貼られていた。

「夏のことも大会」と題したK大児童教育部の夏期児童福祉教化巡回班の催しものである。内容は「童話、絵ばなし、人形劇、おとぎ狂言」とあり、次に「後援・〇〇宗兩本山」等の文字が並んでいた。この瞬間、

# 一枚のポスターが教えるもの

林 篤信

この一枚のポスターは、私の心を大きく揺り動かそうとしていた。

そこで、詳しく調べてみると、この教化巡回班は大半が将来、宗門に入る方々で宗派の教化活動の一環であるらしい。

処がどうであろうか。他宗教のこれらの動きに較べ、我が神社界の教化対策は一步も二歩も遅れをとつていようと思われる。

去る三月十一・十二日(金の二日間)に亘つて、神戸市立国民宿舎「須磨荘」で行なわれた神青協主催の「中

央研修会」も、その一つであろう。「青少年サークル指導と実技」の講師として、滋賀県神社庁理事、上田俊三氏があたられたが、二百余名の参加者に対し、講師一人の陣容に私は、ただただ呆然果てた。(当の講師も、分科会報告後、「他宗教と較べ教化対策の立遅れ」を指摘されていられたようであつたとか。)

普通これ程の参加者がある場合は、実技指導に於いては、五十名程度に分け、その単位毎に一人の実技講師を配置すべきであろう。催しを企画

研修会に参加して神職としての気をつけなければならない点を再確認したというのが私の実感でした。

先ず我々は講義を受けた後二つの分科会に分かれて討論会に入る。第一分科会は「青少年団体を設置する場合の順序とその配慮」第二分科会は「青少年を育成する上における障害とそれを乗り越える方策」第三分科会は「青少年団体育成の指導者としての役割」という問題を出される。各分科会において種々ディスカッションを交わし後総合発表が行なわれたが何故か神社本庁が求めた答えとはあまり関係のないものが多い。これは我々が考えすぎたのか勉強不足なのか……。

兎にも角にも何が欠けていることは考えられる。青少年の育成ということが一番の重要点である。しかれば何から始めたならばいいのか、私は「はからい」だと思ふ。往古より「子は親のはからい、神は神宜のはからい」と云われている様に先ず集まり話し合う場を作る。つまり働

## 東海地区

### 神社青少年対策研修会

きかけ呼びかけを神職がする。次にその中よりリーダーを作る。

また今一つこの青少年育成に関連して忘れてはならないのは、戦后からの偏向教育である。今こそ美しい日本の伝統である情操面、精神面の見なおしをさせなければならぬ何故ならば、神職たる人なれば当然なことでして持たなくてはならない「敬神崇祖の心」が忘れかけつつある。この心をなくせば当然国を守る意識がなくなり、すべて唯物視することによつてのみ考える様になる。「敬神愛国の精神をもつ立派な日本人」を作るためには教育というが非常に重要なことは今さら云うまでもなからう。そこで大事なことは、神職が出来得る限りPTAに参加(出来れば役員となり)して、日教祖の様な行動にブレーキをかける必要があると思ふ。兎に角、各自の創意と工夫は努力以外青少年育成の開發の途はないと考える。

冷泉記

### 神道青年全国協議会

## 第二十八回総会報告

六月十二日、午前十時より神社本庁において全国の先輩諸兄多数参加のもとに開催された。三重県よりも矢野副会長以下四名が出席。総会では、昭和五十年年度会務報告、合計中間報告などに続き、昭和五十一年度活動方針並びに事業計画案が会長より提議され、この件につき熱心な討議がおこなわれた。まず活動方針として、第六十一回神宮式年遷宮に向けて鋭意努力奉賛活動を行うこと。次に靖国神社問題、北方領土問題等に対して強力な支援と運動を繰り広げること。次に、これからの日本を担う青少年の健全育成と指導をあらゆる機会をとらえて行なわなければならないことであり、神社界にこの問題が云々されてから久しいことであるが、今最もこの問題に強力に取り組まねばならない時期である。以上の対外的活動方針に加えて、我々青年神職の自己研鑽並に全国協議会および各単位の組織的強化を計る内部活動を合わせて、五十一年度の活動方針として提案された。熱心な質疑応答のあと、本年度の活動方針と

して全員が採択し、この方針にもとづき強力に事業を推し進めていくことを決議。続いて決議起草委員より決議文が提議され、満場一致でこれを可決し、第二十八回総会の幕を閉じた。これより決議文を以下に託す。

#### 決議

我々神道青年は、現下混迷せる時局に鑑み神社神道の精神に立脚した悠久なる伝統を顕現し、その担ひ手としての使命を強く自覚し次の事を強力に推進する。

- 一、第六十一回神宮式年遷宮奉賛の啓蒙運動を展開する。
- 一、組織の充実と自己研修に努め、更に青少年教化を積極的に推進する。
- 一、歴史、伝統を護持し、自然環境の保護育成運動をすすめる。
- 一、青年神職としての立場を自覚して友好団体との交流を深め時局下の問題解決につとめる。

昭和五十一年六月十二日  
神道青年全国協議会  
(佐野 記)

## 昭和五十一年度の事業計画

### 会員相互の研鑽と組織の充実を

去る七月三日、三重県護国神社に於て三重県神社庁宇治土公庁長をはじめ諸先輩の来賓のもと、三十余名の会員諸兄の出席をえて昭和五十年年度事業計画案が協議された。先ず国民精神昂揚運動を目的とする活動として、第六十一回神宮式年遷宮に對する奉賛、並に啓蒙活動を中心にお宮の緑を守る運動、靖国神社問題等時局問題に對する認識、並に実践活動等が打ち出された。又組織の充実等特に対内的な活動としては、各種研修会の実施、県下神社の由緒記等の編纂の企画、機関紙の発行、神社庁関係事業への積極的参加、並に奉仕活動等、更には青少年に對する教化活動として、氏子青年対策、神職子弟の集い等、五十一年度の事業計画として協議され、去る八月十一日には、神職子弟の集いを開催、又来る十月三十日の神社庁創立三十周年記念大会には、会をあげて協力する運びとなっており、目下事業を推進しております。

精神作興運動と、それに対する具体的諸活動の推進を柱として五十一年度事業計画案が協議された。先ず国民精神昂揚運動を目的とする活動として、第六十一回神宮式年遷宮に對する奉賛、並に啓蒙活動を中心にお宮の緑を守る運動、靖国神社問題等時局問題に對する認識、並に実践活動等が打ち出された。又組織の充実等特に対内的な活動としては、各種研修会の実施、県下神社の由緒記等の編纂の企画、機関紙の発行、神社庁関係事業への積極的参加、並に奉仕活動等、更には青少年に對する教化活動として、氏子青年対策、神職子弟の集い等、五十一年度の事業計画として協議され、去る八月十一日には、神職子弟の集いを開催、又来る十月三十日の神社庁創立三十周年記念大会には、会をあげて協力する運びとなっており、目下事業を推進しております。

八月六日より三日間、伊勢市の五十鈴川のほとりより第四回神社スカウト全国大会が開催され、第二日目の礼拝行事に祭式講師の川島康治先生を始め当神青会員が奉仕した。

当日の朝は生憎の空模様のため、県営陸上競技場で行なう予定が変更され、体育館(BS隊)と神宮会館(CS・GS隊)の二会場で行なわれた。両会場における隊員は、神社スカウトらしく神青会員の奉仕する祭典に礼儀正しく参列していた。なお奉仕者は次の通り、

(体育館)川島康治・小海途尚・富永主税・川島敏孝・村田正和・(神宮会館)石上紀男・宮崎至功・原光夫・吉田義隆・平石克巳

## 神職子弟の集い 開催される

昭和五十一年度事業の一環として去る八月十一日より十三日までの二泊三日の行程で、神社庁教化部の後援を得、小学四年生より中学二年生までの男子神職子弟八名を集め、一志郡美杉村北島神社の境内を借り、神職の子として充実した日を過ごした。

第一日目昼過ぎ三重県護国神社に集合した八名は先づ同神社に参拝したあと、神青会員の車に分乗し一路現地に向った。途中君ヶ野ダムを見学、午後三時北島神社に到着、正式参拝ののち、テントを張り野営の準備にとりかかった。夕食ののち同神社宮崎有祥宮司の挨拶に続き、神宮式年遷宮の映画建物編を観て午後九時就寝した。

第二日目は午前六時起床、境内清掃奉仕、日供参列、宮司様より同神社由緒沿革についてお話があった。また十時より神社庁講演講師、石垣方寛先生の講演には身をのりだすように聞入っていた。午後は、石垣先生をまじえ、神社のすそを流れる八手俣川の上流にあまごを放流し手づかみで取り川辺で焼きながら川魚の味覚を味わった。夜はキャンプファイ

ヤを囲み大きな声で歌ったりして楽しい一日を過ごした。

第三日、予定していた霧山城跡の探索が時間の都合でとりやめとなり近くの清流で泳いだあと、帰途について、二泊三日の短い期間ではあったが、子供同士で飯を炊き同じ釜の飯を食い大いに親睦を深めた楽しい集いであった。尚今回の参加者は次の通り。

一志郡・喜田川宗之、四日市市・喜多島敏彦、喜多島一郎、員弁郡・牧野洋司、上野市・新居一朗、新居格、鈴鹿市・山本行秀、桑名市・松永栄甫、以上

### 神職子弟の集い感想文 (原記)

キャンプの折には、いろいろなお世話になりました。ほんとうにありがとうございました。自宅に帰り、キャンプをふりかえって、特に印象深く感じました事は、きれいな水の澄んだ川の上流で、川魚を取った事でした。今までに経験のない川で泳いだ事も一つの喜びであり、又自分の手で魚をにぎる事もうれしかったです。

キャンプは、今までの何度か経験したことはありましたが、少し変わったキャンプでした。というのは、ハンゴウでご飯をたかかなかたりしたことですか。テントは広く、四人ではもったいないぐらいでした。指導して下さった青年神職の皆様方もやさしい人ばかりで、とても楽しい日々を過ごせました。それに回りの環境が、とてもめぐ



まれている事におどろきました。「回りが山々にかこまれ、低地には川が流れ、木々の間から日がさしこむ」こんな美しさが、私の頭に強く残っています。

キャンプで特に収穫できた事は、一日目の夜の映画で、本殿御造えの事についてくわしく知ることができました。映画で特に感動しました事は、人手がたくさんかかっていた事。そしてくぎを使わず、こうみよな建て方であった事です。人の手であんなに細部までまらがないのはいくみ、「神わざだ」と言っているのはどなたか。

アツという間に過ぎていった三日間でした。しかしながら、ほんとうにいい思い出でした。

上野市土橋新居格(波多岐神社)

## 神S全国大会 礼拝行事を奉仕

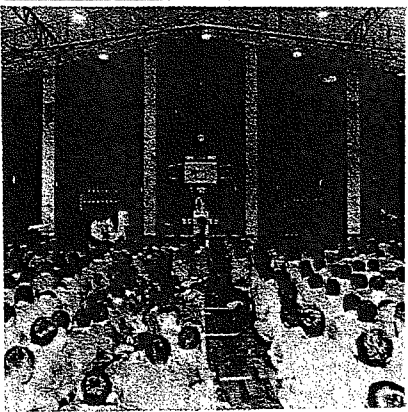
八月六日より三日間、伊勢市の五十鈴川のほとりより第四回神社スカウト全国大会が開催され、第二日目の礼拝行事に祭式講師の川島康治先生を始め当神青会員が奉仕した。

当日の朝は生憎の空模様のため、県営陸上競技場で行なう予定が変更され、体育館(BS隊)と神宮会館(CS・GS隊)の二会場で行なわれた。両会場における隊員は、神社スカウトらしく神青会員の奉仕する祭典に礼儀正しく参列していた。なお奉仕者は次の通り、

(体育館)川島康治・小海途尚・富永主税・川島敏孝・村田正和・(神宮会館)石上紀男・宮崎至功・原光夫・吉田義隆・平石克巳

キャンプの折には、いろいろなお世話になりました。ほんとうにありがとうございました。自宅に帰り、キャンプをふりかえって、特に印象深く感じました事は、きれいな水の澄んだ川の上流で、川魚を取った事でした。今までに経験のない川で泳いだ事も一つの喜びであり、又自分の手で魚をにぎる事もうれしかったです。

キャンプは、今までの何度か経験したことはありましたが、少し変わったキャンプでした。というのは、ハンゴウでご飯をたかかなかたりしたことですか。テントは広く、四人ではもったいないぐらいでした。指導して下さった青年神職の皆様方もやさしい人ばかりで、とても楽しい日々を過ごせました。それに回りの環境が、とてもめぐ



# モデル神社に指定されて

このたび、伊奈富神社が本県のモデル神社に指定せられる光栄に浴し、深謝申し上げます。

若輩にして神職歴も浅い非才の私と、常日頃、神明に御奉仕戴いてる氏子総代の方々と一丸となつて、この重責を果す所存であります。

この事業は、周知の如く三ヶ年の継続事業であり、千年来の古社たる当神社としては、

- 一、御社殿の造替及び境内整備
- 二、氏子の教化育成

右の二項目を基本方針として、推進してまいります。

一については、御本殿の屋根及び御前幄舎の造替、玉垣の新設等を次年度の計画として現在、その準備に入っております。また境内整備は、従来より裏参道、神池の整備を行っており、目下継続中ですが、今後、植林と県指定史跡のツツジの保存に力を注ぎたいと考えております。

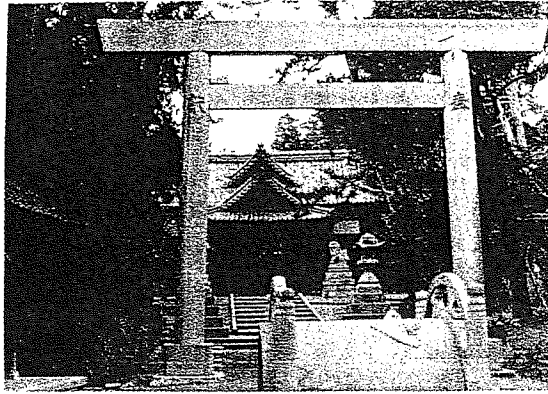
二については、まず御神徳の高揚に務めるべく由緒記、社報を発行しそれらを通して氏子との繋をもち、更に外廓団体を結成して神道教化の組織活動を進めてまいります。

以上のような計画を以てこの事業を推進し、モデル神社の主旨に沿う

よう全力を尽したく存じます。

この諸事業を推進するに当り、若輩ゆえ至らぬ点が多々あらうかと存じますが、何卒御指導、御支援の程宜しくお願い申し上げます。

(伊奈富神社宮司 吉田義隆)



## 愛知県神青当番

### 東海五県教化研修会開催さる

去る九月二十八日二十九日の一泊二日に亘り開催され、当県からは九名の会員諸君が参加した。研修内容は次号掲載予定。

# サメの世界

このほど、神青

会員の矢野憲一君が日本で初のサメの本「サメの世界」を出版された。同

君は神宮徴古館・農業館学芸員であり、六年前より同

館に展示されている六十余種のサメの剥製に興味をもたれ、専門外の研究に取り組んでこられ、今度新潮社より出版の運びとなった。



出版にこぎつけるまでには、古事記、日本書記等の文献を始め、県内の漁村は元より遠くは宮城県の石巻まで出向いてその取材にあつたそうである。同書は、「サメのエピソード」「進化と生態」「さまざまなサメたち」「サメの利用」「サメ釣りの五章から成っており、サメと人間との

の深いかかわりあいを豊富なエピソードを盛り込んで平易な文章で綴られている。会員諸兄は是非とも御一読いただきたい。定価七五〇円。

## 事務局より

神社庁創立三十周年記念大会が、来る十月三十日に執り行われます。会員諸兄多数の参加、協力を切に望みます。

今回、長くとだえていた会報「榊葉」を再び発行する運びとなりました。これは編集にあたられた吉田会員の努力によるものであります。

会員交流の会報を滞りなく発刊するため諸兄の協力をお願いします。会の各事業を推進するには、各会員の会費が原動力となりますので、会費納入に一層の御理解を願います。

## 編集後記

本年は天皇陛下御在位五十年を迎えました。来る十一月十日には、政府主催の記念式典が催されます。我々も陛下の聖寿万歳を心を込めてお祈りしたいと思ひます。

当会の機関紙「榊葉」の発行が長年途絶えておりましたことを深くお詫び致します。年一回の発行ですが会員相互の交流の場となるよう諸兄の御意見、特に兼職されている方の御意見、御感想等を掲載したいと考えております。どうぞお寄せ下さい。(吉田記)